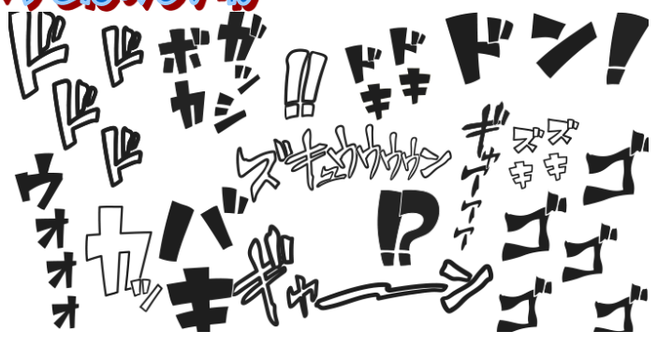
オノマトペってたのしいね



「ズキュン」「バキ」「ドドド」この文字を見ただけで、それぞれ音や情景のイメージが湧いてくるのではないでしょうか。このような擬音語と擬態語を総称して『オノマトペ』と呼びます。世界的に見ても日本はオノマトペが多い、オノマトペ大国です。

オノマトペは幼児の言葉の発達を促すと言われています。役割とは

１．言葉の聞き取りに役立つ

「どんどん」「スルスル」のようなオノマトペは、リズミカルで音のくり返しが使われることが多いですよね。こうした言葉は、子どもの注意を惹きつけて印象に残りやすく文のなかから単語を切り出すのが簡単になると言われています。

２．言葉を理解するのに役立つ

言葉の発達過程にいる子どもにとって、自分の周りで話される会話の中には知っている言葉と知らない言葉が常に混ざっています。

仮に「降ってる」という言葉がまだ分からない子が「雨がザーザー降ってるね」と聞いたとき、「ザーザー」が分かれば「降ってる」の意味を推測し、「こんなとき使う言葉なんだな」「こんな意味かな」と掴んでいくかもしれません。もちろん言葉の意味を理解していくプロセスは単純ではありません。さまざまな表現のなかでくり返し触れていくことで少しずつ理解が進みます。

３．おしゃべりを増やすのに役立つ

オノマトペに限らず、小さいお子さん向けの言葉（赤ちゃん言葉）では、お片付けのことを「ナイナイ」、おしっこのことを「チッチ」のように、同じ言葉を２回繰り返すことがあると思います。同じ動きの反復になり音が単純になることで、難しい音の並びが避けられ、言いやすさにつながるのです。

４．動作の言葉（動詞）の習得に役立つ

単語をつなげた文を話すためには、行為や動作の言葉（動詞）の獲得が欠かせません。たとえば「走る」は両腕を振って脚で地面を蹴って素早く移動する様子ですが、どこまでが「歩く」でどこからが「走る」なのか、言葉の意味を理解するときには、もしかしたら戸惑う子も居るかもしれません。人の動いている様子からどこからどこまで、どんなことを指しているのか意味と言葉を結びつけるのはなかなか複雑な過程です。こうした理由から、子どもにとって動作の言葉の習得は少し難しいようです。「あむあむ（食べる）」や「たったか（走る）」のようなオノマトペを使うことで、スモールステップの足場を一段階作ってあげることができます。

このような言葉は『耳から聞こえる音』『人が話している言い方』の２つを掛け合わせて、「あーこれ、じゃーじゃーって水が流れてるから「じゃーじゃー」って言うんだな～！」と知って自然と耳から覚えて行くことができます。難聴学級ではより丁寧にオノマトペについても伝えていきたいと思っています。雨が降った時を傘をさすなど体験を大切にしていきたいですが、すべてを体験するのは難しいことなので、イラストや絵本を活用し視覚的に伝えていきたいと思います。

オノマトペのイメージにあわせて、文字を音が聞こえるようなデザインになっています。読んでもらう楽しさを文字と絵を見る楽しさを味わえるようになってます。

難聴学級では今学期、オノマトペを楽しめる絵本を購入しました。
クラスの友達とも一緒に楽しんでいきたいと思います。